



毎月 1 回 1 日 発行  
発行 公益社団法人 全国防災協会

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町 3-11  
(パインランド日本橋ビル 5F)

電話 03 (6661) 9730 FAX 03 (6661) 9733

発行責任者 水落雅彦 印刷所 (株)白 橋



平成26年12月 風浪による被災状況 (上越市)

目 次

各県コーナー 「新潟県」……………新潟県土木部河川管理課… 2

新任査定官プロフィール…………… 6

《各県コーナー》

# 新潟県における平成26年発生災害について

.....新潟県土木部河川管理課

## 1. はじめに

新潟県では、この10年間に「平成16年7月新潟福島豪雨（7.13水害）」、「平成16年新潟県中越地震」、「平成19年新潟県中越沖地震」、「3/12長野県・新潟県境地震（H23年）」、ならびに「平成23年新潟・福島豪雨」による大災害により甚大な被害に見舞われました。現在も平成23年発生災害の改良復旧工事を鋭意進めています。

平成26年は、全国的には、人的被害を伴う大きな各種災害が発生した年となりましたが、新潟県においては、幸いにも被害が少ない年となりました（図-1）。

## 2. 平成26年災の概要

平成26年災については、地すべり（1回）、梅雨前線豪雨（1回）、梅雨前線豪雨及び台風8号（1回）、豪雨（1回）、落雷（2回）、風浪（1回）の計7回の異常気象により公共土木施設が被災し、計4回の災害査定が行われました。県と市町村合わせて98件、約33億円の査定決定額でした（表-1）。

特に12月16日～18日の風浪災が全体の大半を占

表-1 平成26年査定結果一覧（異常気象別）

	異常気象	件数	決定金額 (百万円)
①	4/5 落雷	1	43
②	3/29～6/27 地すべり	1	110
③	7/8～11 梅雨前線豪雨および台風8号	75	903
④	7/9 落雷	1	6
⑤	7/17～18 梅雨前線豪雨	1	9
⑥	12/1～5 豪雨	2	30
⑦	12/16～18風浪	17	2,219
	合計	98	3,320

める災害でした。今回は、この風浪災害について紹介いたします。

### (1) 12/16～18 風浪災

#### 1) 概要

12月16日～18日にかけては日本海と本州南岸を低気圧が北東に進み強い冬型の気圧配置になり、海上では北西または西北西の風が非常に強く、波高も高くなり県内の海岸全域で波浪警報が発令されました。

10分間平均最大風速は、岩船港（村上市）24.4m/s、新潟西港（新潟市）17.8m/s、柏崎港（柏崎市）23.3m/s、直江津港（上越市）21.9m/s、姫川港（糸魚川市）21.7m/s、相川（佐渡市）では23.4m/sを観測しました。

今回の気象海象状況の特徴として、10分間の平均最大風速15m/s以上の継続時間が非常に長く、被災時には計画外力（1/50確率波浪）相当の「高波浪」と「高潮位」が同時に来襲したことにより大きな被害が発生しました。

被災箇所は村上市、上越市、糸魚川市、佐渡市の計16箇所の海岸施設と佐渡市の市道1箇所が被災しました。

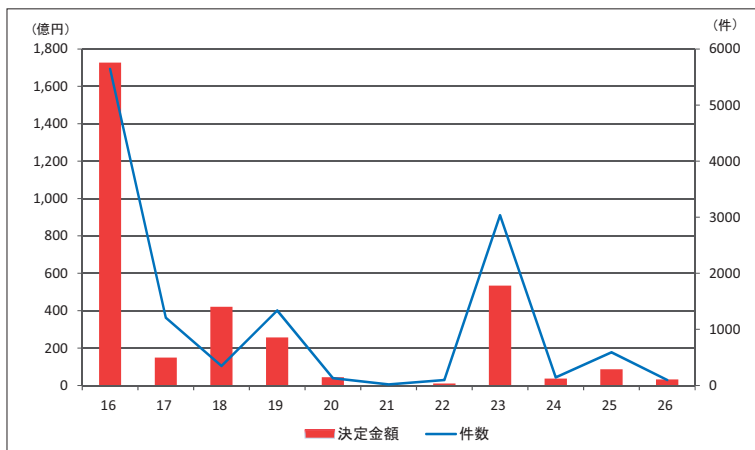
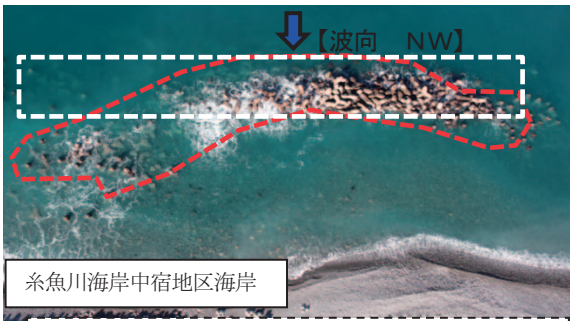


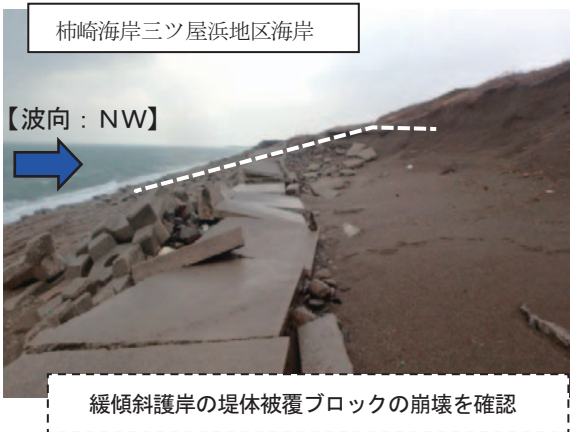
図-1 新潟県の平成16～26年の査定決定金額と件数

《各県コーナー》



離岸堤ブロックの移動・散乱により堤体が崩壊していることを確認（赤点線部）

写真－1 風浪による被災状況（糸魚川市）



写真－2 風浪による被災状況（上越市）

2) 査定への対応

日本海側の冬は波が荒く、被災日以降も海上での測量作業が行えないため、被災範囲の確定をすることができない状況が続きました。

しかし、平成26年発生災害は1月末までに査定額を決定しなければならないため、査定方針について、国土交通省と財務省とで協議して頂き、以下の方針で査定に臨みました。

【査定方針】

① 目視等により、施設の被災事実は確認できるが、海上および水中の測量が不可能で、被災範囲、地形が確認できない場合は、推定による復旧範囲を設定し、原形復旧により工事費を決定し申請する。

ただし、査定終了後、測量を実施し、被災範囲の確認、被災メカニズムの検討を行い、復旧

【査定申請方法】

**別紙-1**  
新潟県 平成26年発生災害 第4次査定  
人工リーフの申請方法について

- 測量が不可能である場合は、写真等で被災範囲が確認できる範囲を申請する。
- 海況地形が不明で測量が不可能な場合は、推定による被災範囲を申請する。
- 被災後に測量を実施し、設計変更により必要の範囲、復旧工法に変更する。

**別紙-2**  
新潟県 平成26年発生災害 第4次査定  
離岸堤の申請方法について

- 被災範囲が不明な場合は、陸上からの測量結果のみで海堤ブロックの高さの1/2以上の低下が確認できる範囲を申請する。
- 陸上からの測量結果、過去の測量結果等を基に、図-1のように被災前・被災後の位置が確認できる範囲を申請し、査定額を申請する。
- 被災範囲が不明で測量が不可能な場合は、推定による被災範囲を申請し、査定額を申請する。
- 被災後に測量を実施し、設計変更により必要の範囲、復旧工法に変更する。

**別紙-3**  
新潟県 平成26年発生災害 第4次査定  
緩傾斜護岸の申請方法について

- 被災後が明確で、堤体下部の被災状況が目視で確認できる場合
- 現地において基礎石等の敷設が確認できる場合や、試掘等によりコンクリートブロックの状況が説明できれば下部の復旧を申請する。
- 試掘等の調査が困難な場合は、図-1のように被災前・被災後の位置が確認できる範囲を申請し、査定額を申請する。
- この場合、中部、上部の復旧工法は、下部が被災であったものと仮定して検討する。
- 査定後に測量を実施し、設計変更により必要の範囲、復旧工法に変更する。

図－2 海岸災害査定申請方法

範囲と復旧工法の変更を行う（施設別（人工リーフ・離岸堤・緩傾斜護岸）の申請方法については図－2による）。

② 被災していることが想定されても現時点で測量が不可能なため被災の事実が確認できない箇所は査定申請しない（主に人工リーフ）。

ただし、採択を受けた施設と1箇所工事として扱うことができる施設において、査定後の調査により被災の事実が確認できれば、採択を受けた施設と併せて災害復旧事業で復旧する。

## 《各県コーナー》

## 3) 査定結果

今回の風浪災は、県管理海岸計16箇所と市道1箇所について、12月の発災から準備を行い、1月末に査定を実施しました。荒天時期であるため、査定期間中の佐渡への移動について、カーフェリー等の欠航も危ぶまれましたが、予定通り全17箇所の査定を行うことができました。

申請箇所には、2箇所の金額保留案件があり、査定後すぐに保留解除申請を行い、2月下旬に保留は解除され、約22億円の査定決定となりました(表-2)。



写真-3 査定状況（海岸）

表-2 12/16~18風浪災 査定決定金額

公共土木施設被害額(査定決定) (単位:百万円)						
工種	県全体		県工事		市町村工事	
	箇所数	金額	箇所数	金額	箇所数	金額
海岸	16	2,175	16	2,175	0	0
道路	1	44	0	0	1	44
計	17	2,219	16	2,175	1	44

## 3. 研修、啓発活動などの取組について

ここでは、河川管理課の取組事例として、災害査定能力向上の取組、および減災・防災を啓発する取組(情報発信)について紹介します。

## (1) 査定臨場研修

新潟県では、毎年災害復旧(模擬査定)研修を行い、県、市町村職員の査定能力向上の取組を行っています。平成26年は、毎年の研修に加え、県の査定申請現場を事例として、査定経験の少ない市町村職員を対象とした「査定臨場研修」を実施しました。



写真-4 査定状況を見学する市町村職員

19名の参加があり、大半が査定経験0~2回程度の職員でした。査定官到着前に、当課職員が被災現場の状況を説明し、その後、申請~付箋入れまでの一連の状況を実際に見学しました。離れた所で見学したため、細かなやりとりまでは分かりませんが、参加者は査定の雰囲気を知ることができ、貴重な経験となったようです。

また、臨場研修後には、査定の基本事項について講義も行い、災害復旧事業について知識を深めてもらうことができました。

## (2) 災害防止啓発の取組

県民の安全・安心を確保するため、災害防止についての啓発の一環として、洪水時の対応、水難事故防止についてポケットブック等で周知する取組を行っています。

取組のきっかけは、①洪水時対応について、平成23年新潟・福島豪雨を契機に実施している「新潟県水災害ソフト対策連絡会」で県民の防災意識向上の具体的対策の検討や、NHK地デジ放送など、パソコン・携帯電話を必要としない雨量、水位情報提供が開始(H22.4~)されたが住民への認知度が低いこと、②GWに県外客による水難死亡事故が発生し、水難事故防止について啓発が必要であると考えました。

このため、洪水時の避難や水難事故防止に役立つ情報について、チラシ形式の1枚に集約し、チラシの配布、県ホームページで周知しました。内容と周知状況は、以下のようになっています。

## ○洪水対応ポケットブック

・洪水時の避難等に有用な雨量、河川水位などの

## 《各県コーナー》

情報について用語の解説や入手方法(パソコン、携帯電話、NHK 地デジなど) を記載

- ・安全な避難に必要な洪水ハザードマップや避難時の注意事を記載・避難の目安となる「水位周知河川」の河川と水位観測所の位置を記載



写真-5 洪水対応ポケットブック

昨年6月に1万部印刷し、県地域振興局及び全市町村に配布(約0.9万部配布済み)し、8月の7.13水害10周年イベントにおいて来場者へも配布しました。「河川の情報があること初めて知った」、「まとまっていて判りやすい」との配布時の声があると共に、町内会の防災勉強会資料として問合せがありました。

### ○安全に新潟の川と海を楽しむために

- ・「新潟の川と海を楽しむための5ヶ条」として出発前の情報収集や遊んで良い場所の確認などについて5項目に整理
- ・「危ない場所の4つのサイン」として川や海における危険な場所のサインをそれぞれ4項目に整理

例：(川) 石にコケ→滑りやすい

(海) 投げ釣りする人が多い→水際が深い

昨年5月より県地域振興局を通じて高速道路のサービスエリアや水難事故防止の会議等で配布を行いました。配布時の声として、「危険な場所のサインなどは参考になる」というものがありました。



写真-6 新潟の川と海を楽しむために



写真-7 イベントでの配布状況

## 4. まとめ

新潟県では、県民生活の安全や利便性の確保のための維持管理や維持補修、県民のくらしと命を守る社会資本の整備や老朽化対策、防災・減災対策などに取り組んでおります。

このような仕事に携わる新潟県土木部職員をPRするため、You-tubeに「新潟県土木部職員紹介Movie」をアップしました。

新潟県土木部職員を代表し、ここに登場する職員たちの熱い思いを、この月刊防災を読んでいる全国のみなさんにも見て頂きたいと思っております。



## 新任査定官プロフィール

(五十音順で掲載)



氏名 赤沼 隼一  
 出生地 神奈川県  
 家族  
 趣味 スポーツ観戦  
 温泉巡り

主な経歴  
 外務省国際協力局  
 下関市役所  
 関東地方整備局  
 四国地方整備局  
 新潟県  
 平27. 水管理・国土保全局防災課災害査定官

本年4月より着任致しました赤沼と申します。

昨今の頻発化、激甚化している災害発生環境下において、地域における迅速でより良い復旧・復興につながるお手伝いをしていきたいと考えております。

また皆様方との協議や現場での考察を通じ、自らの技術や知見に磨きをかけていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく御願い致します。



氏名 長内 伸夫  
 出生地 青森県  
 家族 4人  
 趣味 ウォーキング

主な経歴  
 昭54. 建設省採用  
 平22. 東北地方整備局福島河川国道事務所郡山出張所長  
 平25. 東北地方整備局岩手河川国道事務所副所長  
 平26. 水管理・国土保全局河川環境課河川保全企画室課長補佐  
 平27. 水管理・国土保全局防災課災害査定官

今年度は災害が少ない年でありますことを祈りつつ、万一の場合には、被災地の早期復旧のために全力でがんばります。



氏名 小幡 宏  
 出生地 山梨県  
 家族 4人  
 趣味 山登り  
 街歩き

主な経歴  
 昭59. 建設省採用  
 平20. 関東地方整備局建政部都市整備課課長補佐  
 平22. 関東地方整備局道路部道路計画第一課課長補佐  
 平24. 関東地方整備局甲府河川国道事務所副所長  
 平27. 水管理・国土保全局防災課災害査定官

被災地の迅速な災害復旧のため、スピード感をもって災害査定に努めたいと思いますので、よろしく御願いします。

## 新任査定官プロフィール



氏 名	辰 野 剛 志	主な経歴
出生地	長野県	昭57. 建設省採用
家 族	5 人	平21. 関東地方整備局河川部河川計画課課長補佐
趣 味	「いい汗」をかくこと	平24. 関東地方整備局企画部技術管理課課長補佐
		平25. 関東地方整備局常陸河川国道事務所副所長
		平27. 水管理・国土保全局防災課災害査定官

被災地の一日も早い復興をめざし、健康第一、よく見、よく聞き、しっかり判断、じっくり継続に心がけます。

よろしく願いいたします。



氏 名	森 岡 弘 道	主な経歴
出生地	島根県	昭61. 山口県採用
家 族	6 人	平22. 山口県土木建築部砂防課災害復旧班長
趣 味	ペタンク 野球観戦	平24. 山口県下関土木建築事務所工務第一課長
		平26. 山口県土木建築部技術管理課主幹
		平27. 水管理・国土保全局防災課災害査定官

被災施設の早期復旧を通じて、安全・安心な地域づくりを支援してまいります。どうぞよろしく願いします。





